

令和6年 飯田市教育委員会7月定例会会議録

令和6年7月24日（水） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	松下 弘毅
学校教育課長補佐兼教育企画係長	倉田 奨

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは定刻になりました。日程第1、「開会」。これから令和6年飯
田市教育委員会7月の定例会を始めます。よろしくお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、本定例会の会期につきまして、本日7月24日の1日間とし
たいと思います。いかがでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、本定例会の会期は、本日7月24日の1日間に決定をいたしました。

次の日程に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、「会議録署名委員の指名」。会議録署名委員として林 綾子委
員さんに指名をさせていただきます。

◇教育委員（林 綾子） はい、承知しました。

○教育長（熊谷邦千加） よろしくお願いします。

次の日程に進みます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、「会議録の承認」。6月の定例会の会議録につきまして承認
を求めたいと思います。あらかじめ教育委員さんにお送りしてご覧をいただいております
が、内容について何かご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。6月定例会の会議録は承認をいただきました。

次の日程に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、「教育長報告事項」。お手元に配布しました、7月教育委員

会定例会教育長報告事項の1枚、表裏ありますがご覧いただきたいと思います。

6月15日にピースゼミ、高校生を対象にした平和学習ですけれども、そこで戦争遺跡の見学があったので、私も一緒に参加させていただきました。

高校生は8人くらいでしたかね。当日欠席もありましたのでそんなに多くはなかったんですが、戦争で亡くなった人を関係者がその御霊を弔う背景とか経緯について、全てではなくて概要を説明していただいて、逆に問いが持てるような説明の仕方をしていただきました。

写真で見る以上に、実際にその場に行ってその前に立つということは、やはり実体験が大事だということのを思いました。その後、これから何回か進めていくわけですが、どんな学びができるのか。この回はそれぞれテーマ案を出し合って、これからテーマを決めてやっていくっていうそんな日でした。

それから6月26日には、情報モラル教育の推進委員会が行われました。こちらは情報教育推進委員会があつてのことですが、教育アドバイザーとしてお願いしている南澤先生のお話の中で、子どもたちがネット依存になってしまうとか、あるいは犯罪に関わるというような、それは例えば児童ポルノなんかもそうですけども、「子どもたちの『境界線意識』をしっかりと持ってもらうことが大切だ」という言葉があつて、そこは大事に受け止めなきゃいけないなと思ったわけです。

「境界線意識」とは何かというと、例えばLINEとかメールとか、SNSも、そういうときに人が見て不快なものは駄目だというのが今までだったんですけども、もうちょっと具体的にすると、人に関することを書いては駄目というような、境界線の意識を持つということ。あるいはその行為に対するものについて何か言うのはまだいいんだけど、人に対することを何か書いたり言ったりするってことが駄目と。「こうした境界線意識を身につけてもらえるようにしたい」ということをおっしゃっていただいて、確かに大事だなあと。大体SNSに出てくるLINEで問題になるのは、人の悪口を言ったっていうことが基本的に大体、そういうケースになりますので。20歳の方が、女性を橋の下へ落としたっていう事件がありましたけれど、あれもそのSNSに対して何か言ったというようなことが原因だったということも踏まえますと、大事な事かなあと感じたことでした。

それから3つ目は7月12日に、皆さんも一緒に参加していただいた三遠南信教育サミットがありましたが、蒲郡市の教育長さんからのお礼状が届いて、それぞれの発表した市について書いていただいたんですが、そこの四角にあるようなお礼状をいただきましたので、ここに載せました。

それから4つ目ですけども、夏体験活動ということで、7月20日の土曜日に不登校対応をいろいろしていただいている教育支援指導主事の皆さんを中心に、阿智村にあるパークランドというところで、小中20名、お母さん16名参加いただいて、魚の掴み取りをして、今年は実際にはらわたを取り出して、そして串に刺してっていうところも体験できるということでやりました。今回は、一番安全なハサミでさばきました。終わりには少々疲れの表情があちこちに見えましたけれど、大事な経験になったのではないかと感じました。

裏面につきましては、5つ目ですけども、翌日ですが三遠南信の中学生交流会に、今度は飯田市へ豊橋市、浜松市の中学生をお迎えするというそういうことになるわけですが、その事前の意見交換の練習も兼ねてグループで顔合わせ意見交換を行いました。非常に前向きな子どもたちで、次第に声も大きくなって雰囲気も和んで、ホストとしての役割を果たしてくれそうだなあと、そんな期待感を持てるようでした。

あとは、プライベートで先ほど始まる前にも林委員さんともお話しましたが、プラネタリウムと一緒に見る機会があって、新しい番組は、例えば、私が見たチョコちゃん、林さんの娘さんもいらっしゃったんですけど、NHKの番組のチョコちゃんが出てくる星の星座の解説ということでたくさんの方がまた見ていただくといいなあと。小学生にはちょうどいいんじゃないかなと思いながら見たところでありました。

私からの報告は以上でございますが、何か報告につきまして何かしらご発言ありますでしょうか。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 情報モラルの話なんですけど、まさにそのとおりだなというふうに感じました。

私なりにすごく思っていることは、今のSNSっていうのは「いいね」が欲しくていっぱい表現する。Instagramにしても何にしても。「いいね」っていうのは心じゃないですか。だからこれはそれがたくさん集まるとお金になるというそういう世界なんで、「みんな心を売っているんだよ」っていうことをはっきりみんなに話をして「それでもいいの」っていうことくらいを言ったほうがいいんじゃないかな。そういうところがまだなあなあでなってしまうということで、人の心を経済に乗せるっていうことは、私は非常に良くないことだと思うので、そういう一端を担っているんだよっていうことをきちんと伝えたほうがいいんじゃないかなっていうふうに感じています。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） また、今「心売る」という少し刺激的な言葉もいただいたので、その指導の中でぜひ生かしていけたらなというふうに思います。

ありがとうございました。

日程第6 議案審議（3件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第6、「議案審議」に入ってまいります。

議案第50号 令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に議案第50号、「令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第50号、令和6年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、4ページをお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ33人記載いたしました認定要件にて、ご認定をいただきますようご提案を申し上げます。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしと認めます。

ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

これより議案第50号の採決いたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、議案第 50 号は、原案のとおり認定をいただきました。

議案第 51 号 中学校教科用図書の採択について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第 51 号、「中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第 51 号、中学校教科用図書の採択について、5 ページをお願いいたします。

こちらはまず前段、概要をご説明させていただきまして、その後、お手元にお配りをしております一覧表と付き合わせて選定理由を説明申し上げたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

採択をお願いしている教科書は、飯田市の中学校において令和 7 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日までの間、使用する全教科の教科用図書をご採択いただきたいものでございます。

なお、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 5 項で「当該採択地区内の市町村教育委員会は、採択地区協議会における協議の結果に基づき、種目ごとに同一の教科用図書を採択しなければならない」と規定をされており、飯田下伊那の小中学校は同一の教科用図書を使用することになります。

教科用図書の採択につきましては、先般 7 月 3 日に、下伊那採択地区協議会と調査研究委員会の合同会議及び下伊那採択地区協議会が開催されまして、調査研究委員会から調査研究報告に基づき、下伊那採択地区協議会にて審議がされました。この下伊那採択地区協議会におきまして、飯田下伊那地区において使用する教科用図書が制定された旨の通知がございましたので、今回それを受けて、本定例教育委員会で採択をお願いしたいとするものでございます。

採択をお願いする教科書につきましては、別紙でお配りをしております A 4 横の用紙です。10 教科 16 種目でございます。種目ごとに、発行者、書名、選定理由を記載してございます。そちらでご説明を申し上げますので、令和 7 年度以降使用の教科用図書選定表、及び、お手元にごございます教科用図書をご覧いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず国語でございます。発行者は光村図書出版の「国語」です。

選定理由ですが、「生徒の発達段階に応じた身近な題材から生き方や広く社会に関わる題材まで多様な教材が、段階的・系統的に構成されている。単元初めに『目標』が明示され、『学びへの扉』や『学びのカギ』をもとに学習の道筋にしたがって主体的に学びに向かえるように配慮されている。デジタルコンテンツの効果的な活用により、個別最適な学びや協働的な学びを進めることができるような教科書となっている」ところでございます。

続きまして、書写でございますが、こちらも光村図書出版の「中学書写」です。

選定理由ですが、「生徒の発達段階に応じて段階的・系統的な単元配列をして、知識や技能が確実に身につくように工夫されている。単元の学習目標が明確に示され、学習内容や進め方が分かりやすく展開されており、生徒自ら課題解決に向けた学習ができるように配慮されている。デジタルコンテンツを活用することで、技能を習得するだけでなく、文字文化へ目を広く向けられるような教科書になっている」という理由です。

続きまして、社会の地理的分野ですが、こちらは東京書籍の「新編 新しい社会 地理」でございます。

選定理由は『『スキルアップ』を設け、資料の読み取りや地域調査・分析の手法などを主体的に身につけ、社会的事象を読み取る力を伸ばせるよう工夫されている。また、単元を貫く探究課題を設定し、一時間ごとの学習課題と単元を振り返る活動を設け、段階的に課題を解決できる構成になっている。さらに、主題図を1ページに複数掲載していることが多く、生徒が主題図を重ねて捉えることができる」ということが理由になります。

続きまして、社会の歴史的分野です。こちらは帝国書院の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」です。

選定理由は、「各時代の初めに、生徒の気づきを促す『タイムトラベル』を設け、学習する時代の見通しが立てられるように工夫されている。また、単元の初めの『章扉』で学習を見通したり、『学習を振り返ろう』に取り組んだりすることで、習得した知識・技能やそれを活用した、思考・判断・表現を評価できるようになっていたり、主体的・対話的で深い学びと指導と評価の一体化を実現する工夫がなされている」というような理由でございます。

続きまして、社会の公民的分野、こちらは帝国書院の「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」でございます。

選定理由は「各章の最後に、各節を振り返られるまとめが見られたり、単元を貫く問いについて思考ツールを用いて自分の考えを整理し表現できるように設定されていたりするなど、学習の深まりを実感できる配慮が見られる。また、『アクティブ公民』などの特設コ

一ナーを通じて、生徒が習得した知識・技能を活用して、より深く社会的事象に対する思考力・判断力を高めていける授業を提供しやすく工夫されている」というところでございます。

続きまして、地図は帝国書院の「中学校社会科地図」です。

選定理由は「鳥瞰図や写真、デジタルコンテンツ等により、各地域を大観したり地域的特色を捉えたりできるよう工夫されている。また、どの地域も地図の次に資料がくるように構成し、関連する地図や資料を同じ縮尺で表し、比較を通して分布の特徴や事象間の因果関係を関連付けて考察できるよう工夫されている。さらに、地図等の豊富な資料が掲載されており、幅広く活用できるよう工夫されている」ということが選定理由になります。

なお、社会科の教科書で地理的分野のみ発行者が異なるということについても、委員の中から発言等ございましたが、合同会議等で確認がされておりますので、申し添えます。

続きまして、数学は新興出版社啓林館の「未来へひろがる数学」です。

選定理由は「問題を発見し、解決し、解決の過程を振り返って評価・改善を図ったり、新たな問題を設定したりできるように構成されており、数学を学ぶ良さや楽しさを感じながら学習できるように工夫されている。数学的見方・考え方を『大切な考え方』として明示し、数学的に考える資質や能力が育つように工夫されている」ということでございます。

続きまして、理科ですが、理科は東京書籍の「新編 新しい科学」です。

選定理由は「生徒が主体的に探究できるよう観察・実験を段階的に配列し、思考力、判断力、表現力が高まるように工夫されている。身近な題材を取り上げ、既有概念とのずれを生むような工夫や、写真・イラスト・レイアウト等で興味・関心をもって探究できるように構成・編集されている。各章の最初と最後に記述するワークシートによって、自身の学びや見方・考え方の変容を自覚できるよう工夫されている」ということでございます。

続きまして、音楽の一般です。こちらの教育芸術社「中学生の音楽」です。

選定理由は「やさしい楽曲で学んだ後、発展的な内容を扱い、主体的、対話的に学べるよう題材配置がなされるとともに、学習を自ら見通し振り返ることができるようワークシートが工夫されている。音楽の楽しさを味わいながら、生活や社会における音楽の役割や郷土の伝統音楽などにも触れられ、音楽に主体的に関わる態度で育てていくことができるよう工夫されている」というところでございます。

続きまして、器楽合奏です。こちらも教育芸術社「中学生の器楽」です。

選定理由は「多くの曲がソプラノリコーダーにも対応しており、弾力的な配慮がなされている。簡単な技術で楽器の面白さを体感し、技能を身につけ、その後発展的な内容を

様々な視点から学び、音楽的な見方・考え方を働かせ楽しく活動できるように工夫されている。また、楽器の比較をしたり、創作や鑑賞に結び付けたりして対話的で深い学びができるように工夫されている」ところでございます。

続きまして、美術です。美術は日本文教出版の「美術」になります。

選定理由は「各学年の発達段階に応じた題材配置と多様な表現方法や表現活動の紹介により、豊かな発想や構想を基に創作活動や鑑賞に取り組めるよう配慮されている。また、『造形的な視点』や『表現のヒント』が明示されており、作品の見方や考え方を広げたり体験的に学習を深めたりすることができるように工夫されている。魅力的な美術作品が紹介されており、作品の特色や良さを豊かに味わうことができる」ということが選定理由となっています。

続きまして、保健体育は、学研教育みらいの「新・中学保健体育」です。

選定理由は「小さな気づきや疑問から学習をスタートさせ、それを解決するための手がかりが本文や資料に上手に配置されている。また、みんなで考え、話し合うための多様な視点が用意されている。『リラクセーション』や『心肺蘇生法』等の実習資料も充実しており、身につける技能も明確になっている。巻頭の鮮やかな写真やメッセージが印象的であり、各ページのイラストも効果的で親しみやすい」になります。

続きまして、技術・家庭の技術分野です。こちらは東京書籍の「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」になります。

選定理由は『技術の見方・考え方』について丁寧に説明され、教科書全体を通して、技術を工夫し創造し続けられる資質・能力が効果的に育成できるよう工夫されている。教科書と連動した豊富なデジタルコンテンツが用意されており、学習の進度や興味・関心に合わせて、より個別や集団に応じた学習が進められる工夫がされている。また、生徒の学びと社会課題をつなぐ具体例が示され、将来にわたって技術と生活との関わりについて考えられるような工夫がなされている」となります。

続きまして、技術・家庭の家庭分野。こちらは東京書籍の「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」です。

選定理由は「ガイダンスや各編の導入で『生活の営みに係る見方・考え方』を働かせる場面が例示され、教科書全体を通して生活を工夫し創造する資質・能力が効果的に育成できるよう工夫されている。ワークシートや思考ツール、豊富なデジタルコンテンツが用意されており、学習の進度や興味・関心に合わせて、より個別や集団に応じた学習が進められる工夫がされている。また、安全面や衛生面についても科学的な解説があり、実生活に

おける課題解決に直結する工夫がされている」という点でございます。

続きまして、英語は東京書籍の「NEW HORIZON English Course」です。

選定理由は「コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、既習事項を活用しながら自分の考えや気持ちを適切に表現できるように、4技能5領域を統合した様々な練習活動や言語活動が工夫されている。小中のスムーズな接続を重視した内容・構成の工夫、生徒の学習意欲を喚起し思考力・判断力・表現力を育成するための工夫、実践的なコミュニケーションを指向した活動設定等の配慮がみられる」というところでございます。

最後でございます。道徳になります。こちらは光村図書出版の「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」です。

選定理由は「身近な教材を、テーマを持たせたユニットとして括り、その中で生徒が道徳的価値を多面的・多角的に追求できる構成になっている。また、それぞれの教材が生徒の心に響くものであり、しかも、ねらいとする道徳的価値が明確である。さらに、生徒が自ら教材と自分と重ねて考えたり、生き方についても考えを深めたりする工夫がされている。一時間や一年間の学びを振り返る『振り返り』も大切に考えられている」ことが選定理由になります。

以上、採択地区協議会では適切に審議がされましたので、その選定理由を含めご説明を申し上げました。

以上、中学校教科用図書の採択についての説明は以上になります。

ご審議をよろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまのこの件につきまして、質疑はございませんか。

ちょっとゆっくり見ている時間がなかったので、多少もう一度気になるころがあれば見ていただいて結構です。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 初めて中学校教科用図書の採択というところで携わらせていただくので、ちょっと質問なんですけども、このように1・2・3と分かれているのは一年生・二年生・三年生というのは分かるんですが、そうでないこの例えばこの家庭分野の、これは1冊で一年生・二年生・三年生が使うということになるのでしょうか。7年から採用ということは、7年度に中学校一年生になられる方にこれ採用していくのか、それとも7年度から、例えば二年生とか三年生になった人は例えばこれの新しい科学の3からやるのか、その辺はどういうふうになっているんですか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） こちらの教科書7年度から採用ですので、一年生・二年生・三年生、それぞれ7年度に新しい教科書に変わるということです。

◇教育委員（野澤稔弘） そうすると一冊で三年分まとまっている教科書は、二年生は二年生の単元の途中からやるようなイメージで、それで総合的につながっていくのかどうかというのは担保されているのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） そういったところも含めて各教科担任が配慮し、各校で進めていくということでもあります。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） そういう素朴な疑問といいますか、よく分からないところは気になったら聞いていただいて、どうぞ。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） それで先生結構負担じゃないですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） おっしゃる部分もあると思うんですけども、それまでの教師としての指導者としての蓄積の部分もありますので、それと学習指導要領とそれに基づいてつくられたこの教科書をちゃんと照らし合わせて、子どもの目標に準拠した学習になるように進めておるはずでございます。

以上です。

◇教育委員（野澤稔弘） ご負担にならなければ良いと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 私見を申せば私は国語でしたが、変わるたびに教材研究して教具などをつくりなおさないといけないので大変でした。

ただ、新しい教材に出会うことは、これをどうやって子どもたちと一緒に勉強しようかというワクワク感もあって、必ずしも負担感だけではないといいますか、この教材はやりにくいなというところがなくなったりすることもありまして、長所・短所両方あるかなと思いますが、特徴的にはやはり今の学習指導要領の方向性で検定されているので、内容的には基本的に前の教科書と変わっているんですね。内容が変わっているわけでありますので、そういう意味ではつながりはちゃんと大丈夫かなと私は感じましたけれども。

◇教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 私もよく分かります。

さらにいかがでしょうか。

林委員さん。

◇教育委員（林 綾子） 今回の採用の教科書に限らずですけれども、ずっしりした感じがあります。これはだんだんとはやっぱり重さっていうのは少し軽減されて、私も並びで見たことがないんですが、多少軽減されているというか、デジタル化ということで、子どもが持って歩くのに少しは負担感は減っているのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 重さですね。

◇教育委員（林 綾子） 重さ、そうですね。大きさは大きくなっていると思いますけど。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 今回、教科書選定をする中で、いくつかのところはデジタルになっていたりと、あるいは場面場面でデジタルが活用されてきておりますので、今後、そういったところもデジタル教科書等が進んでくるものと考えています。

○教育長（熊谷邦千加） 専門幹、付け足しはありますか。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） 教科によりましては、全部が全部、毎日持ち歩くわけではありませので、例えば美術と家庭科で美術分野に関わるときには家庭の教科書は置いておいたりっていうそんなようなところで、子どもがちゃんと教科の授業と今やっているところを見て、使い分けるといいますか、持ち運びをするということも考えてもらえるようにしていきたいとは思っています。

以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 全く同じ思いでいて、改めて全部揃ってみると、この教科書、本当にカラーのきれいな、読み物として読みたいと思うような、充実した教科書になっている。紙質も良くなっているし、大きさも結構大きな判の教科書が増えている。今、専門幹がおっしゃるとおり、子どもたちも上手に学校のロッカーに置いたり家に置いたり、使い分けてはいると思うのですが、子どもの学ぶほうの負担もあろうとは思いますが、背負って歩く物理的な重さが登下校の健康上のかなりの負担になるのではないかと。このほかに子どもたちが持ち歩いているのは、当然この教科書に付随して各教科のノート、それから問題集、資料集、タブレット、なおかつそこに水も持っていきますよね。それから体育があれば運動着とか、そのほか実技があるものはそれに類するものとか。だから毎日登山の荷物を背負っているくらい持っている。中学生はかなり重いものを日々持ち歩いているなということ改めて思います。我々の頃も重かったとは思いますが、教科書の判は小さ

かったですし、今ほど荷物もなかった。教科書が充実している分、物理的な重さもなかなかなものだと思います。

採択とは関係ないことですが、子どもたちに同情します。

○教育長（熊谷邦千加） 重さは感覚的には版が大きくなっている分、若干重くなっている気がしますけど、全体は毎回こんな感じなんだろうなと思っております。

よろしいですか。

◇教育委員（林 綾子） すみません、中身ではなくて重さのことで。

○教育長（熊谷邦千加） いえいえ、紙の質も選定調査とか条件に入っていましたので、重さもサイズも当然大事な要素なんです。

さらにいかがでしょうか。

三浦委員。

◇教育委員（三浦弥生） 本当に豊かな内容だなと思って拝見をしました。

本当に雑誌のようなというか自分で学びを深めていくっていう、そういった形の教科書になっているんだなっていうことで、本当、いい教科書を選んでいただいているんだなあっていうところも感じました。

道徳は、中学一年生の光村図書さんは、前に菱田春草の落ち葉を題材にしたところですかね。あれは小学校の道徳だったでしょうか。今回ないのかなと思ってちょっと見たんですが、こうやって変わっていくのかなと思って見させていただきました。

○教育長（熊谷邦千加） ほかよろしいでしょうか。

内容を私も見て、大きく時代とともに変わっているなというのは、やっぱり探究とか自分がさっきのムトスの学びじゃないんですけど、教科書も自分に問いを持って、それを追求して、いろんなことを調べたりしていくっていうような流れにできるような書かれ方をしているなということは感じますし、そこに大きく違っているのはやっぱりQRコード、二次元コードが必ず付いていて、自分でタブレットでそこを見れば、より深く知ることができるっていうのが非常に増えていますし、音楽なんかでいくとQRコードで全部伴奏が流れてくるので音取りも自分でできちゃうというような、そういうことも大きく変わってきているなって思いますので、逆に言えば、一人でもこの教科書があれば勉強できるみたいな、そんなふうにもなっているなっていう感じです。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは、この件につきまして質疑はこれ以上ございませんね。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ご異議はございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ご異議なしと認めます。

この議案第 51 号の採決をいたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ご異議なしと認めます。

よって、議案第 51 号は、原案のとおり採択されました。

蛇足を申し上げますと、飯田下伊那の各教育委員会はこのように議案として全部揃ったところで、正式な採択という形になってまいります。

ありがとうございました。

議案第 52 号 飯田市民公民館運営審議会委員の委嘱について

○教育長(熊谷邦千加) 次に、議案第 52 号、「飯田市民公民館運営審議会委員の委嘱について」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

上沼飯田市民公民館副館長。

◎市公民館副館長(上沼昭彦) それでは議案第 52 号、飯田市民公民館運営審議会委員の委嘱についてでございます。

資料 6 ページをお願いいたします。

本議案は、社会教育法第 30 条及び飯田市民公民館条例第 6 条第 1 項の規定により、教育委員会での委嘱を求めるものでございます。

当審議会は、社会教育法第 29 条第 1 項及び飯田市民公民館条例第 4 条に基づき設置するものでございまして、飯田市民公民館長の諮問に応じ、公民館における各種事業の企画実施について、調査審議するものとされております。

委員の任期は、飯田市民公民館条例第 6 条第 3 項の規定により 2 年と定めており、令和 8 年 3 月 31 日までといたします。なお、委嘱いたします委員は議案のとおりでございます。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長(熊谷邦千加) この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしと認めます。

ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、議案第 52 号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 52 号は、原案のとおり決定されました。

次の日程に進みます。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 7 「協議事項」。

これより協議に入ります。

（1）令和 6 年度小学校運動会・中学校文化祭等の参列について

○教育長（熊谷邦千加） 令和 6 年度小学校運動会・中学校文化祭等の参列についてを最初に議題といたします。

議題の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それではお手元の資料 No. 1 をご覧ください。

こちらは横のものになりますが、令和 6 年度運動会・文化祭への教育委員の皆様の参列希望の学校一覧でございます。こちらは小中 28 校に運動会・文化祭等への教育委員会からの参列の希望の調査を行った結果を一覧にしたものでございます。具体的には 9 校、実施日 10 月 3 日の木曜日から丸山小学校を記載してございますが、中学校に関しては 9 月 27 日に開催をするものでございます。

なお、10 月 5 日には、飯田美術博物館で菱田春草の生誕 150 周年記念の特別展の開幕式が予定されております。今のところ、美術博物館では午前 9 時からというふうにお聞きをしておりますが、そのようなことがございますので、追手町・浜井場・座光寺・山本・伊

賀良が行う運動会の日にちょうど菱田春草の生誕の特別展の開幕式が重なっておりますが、このようなそれぞれ学校から教育委員の皆様へのあいさつ、あるいはあいさつは不要、講評をお願いしたい、あるいは祝辞をお願いしたい、という要望が来ておりますので、ご確認をお願いします。

なお、ホッチキス止めの2枚目になりますが、そちらにつきましては、運動会、文化祭それぞれ参列が可能かどうかの調査用紙になります。こちらは8月2日までに学務係にご提出をいただくか、QRコードからご回答いただければと考えております。

それぞれ参列が可能などをご希望をいただきましたところで、担当で調整をさせていただきますと考えておりますので、よろしくお願いします。

こちらにつきましては説明は以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） 確認ですが、10月5日菱田春草生誕150周年記念特別展開幕式に出席しなければいけないわけではないということよろしいですか。

槇村副館長。

◎美術博物館副館長（槇村洋介） この開幕式につきましては、教育長さんかどなたかが1名来ていただければというふうに考えております。

○教育長（熊谷邦千加） では、教育委員さん全員参加しなければいけないということではない。そんなようによろしいですね。

この件につきまして、質疑などご発言はございませんか。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 申し訳ありませんが、5日の日にはトリプル勤務ぐらいになっていて、その日以外を希望させていただきたいのでお願いします。

○教育長（熊谷邦千加） 今、予定でもし分かる方がいらっしゃればお聞きしておけばよろしいですかね。

◎学校教育課長（福澤好晃） そこも含めて、報告の用紙をお出しいただければ幸いです。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

そのほかに何かご質問等ありますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また、日程・予定を見ていただいて、可能など等をまたお知らせいただければということをお願いをしたいと思います。

三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 終了の時間は、これは午前中でよろしかったでしたか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 終了の時間まで全て学校を確認しておりませんが、例年でいきますと開会がありまして、どこか休憩、あるいはそれぞれのご都合のタイミングまでの参加をお願いできればという状況ですので、何時までいなければいけないという、そういうことにはなっておりません。

◇教育委員（三浦弥生） 午前中とか考えておけば。

◎学校教育課長（福澤好晃） そうですね。

○教育長（熊谷邦千加） 午前中でなくても、途中の休憩が 10 時頃にでもあれば、そこらでも可能な範囲でよろしいかと思います。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 予備日というのも入っているから、本日のほうに丸をすれば、予備日も当然丸をしておかなければということになりますか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 申し訳ございません。説明不足で。

特に予備日がある学校につきましては、運動会雨天の場合予備日での開催になりますので、あわせてそのところをお願いできればと思いますし、逆にこの日は出られるけれどもこの日は出られないということがあれば、それを含めてお書きいただければその中で、例えば5日は出られるけども6日は出られないという状況の中で5日にお願いをしたとすれば、雨が降った場合には事務局で代わりに対応するということも含めて考えたいと思いますので、ぜひその辺りは前向きなご回答をいただければ、調整をさせていただきます。

○教育長（熊谷邦千加） 予備日は出られない場合はやむを得ないと。雨で延期になったときには欠席ですというふうにお知らせすればいいかなと思います。

さらにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また、不明な点がありましたら、調整していただく中で電話等でお聞きいただいても結構ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑がなければ、この議題の協議につきましては以上といたします。

では、次の議題に移ります。

(2) 令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者について

○教育長（熊谷邦千加） 令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者についてを議題といたします。

議題の説明を求めます。

北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） お手元の資料No.2をご覧くださいと思います。令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者についての案でございます。

まず、小学校及び中学校教育課程研究協議会についてなんですが、これは県教育委員会、市町村教育委員会、郡市校長会の三者共催で行われる授業研究会の場であり、多くの場合、会場校が一クラス一時間の授業を公開し、参観した先生方が学び合うという形態をとっております。今年度も県下の郡市ごとに小学校と中学校を会場として、各教科に分かれ、9月から10月にかけて行われます。

飯田下伊那地区では、小学校が10月11日の金曜日、国語や算数、その他全ての教科に分かれ13会場13の小学校が会場になります。中学校は9月6日の金曜日に12教科に分かれ12会場で行われます。当日は、午前中開会式と当日の授業に向けての研究発表、その後一時間の授業公開、一時間程度の研究会、午後は指導主事による県教委からの伝達事項の研修と教科ごと特色を生かした研修会等の研究協議が行われます。

コロナ禍のときにはオンラインや学校職員のみ参加など制限をしておりましたが、昨年度から飯田市で開催される会場については出席を事務局で割り振らせていただいております。

当日は原稿をお渡しますので、主催者として開会式でごあいさつをお願いいたします。一日開催しておりますので、ご都合のつく時間まで結構ですので、教育課程研究協議会の様子を見ていただければと思います。

各会場の日程につきましては、資料2のこれ以降のところで小学校・中学校ごと、あと国語・社会以下そこにありますとおり順番ごと付けてございますのでご覧ください、もし都合のつかない場合は調整をいたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑など発言はございませんか。

林委員初めてですね。

◇教育委員（林 綾子） はい、初めてです。

○教育長（熊谷邦千加） 何か分からないことはありますか。

◇教育委員（林 綾子） おおむね午前中に参加させていただくようなイメージでよろしいでしょうか。研究授業などは先生方と一緒に参観させていただいて、その後の授業研究会みたいなのは先生たちが集まって多分お話されるところかなと思いますが、そういうのも横で聞かせていただくっていう、別に自分が参加とかっていうことではなくて横で聞かせていただくっていうような感じで良いでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

◇教育委員（林 綾子） はい、ありがとうございます。大丈夫です。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤専門幹、補足があれば。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） すみません、一応林委員さんに丸山小学校の健康教育というところでということで、このページのところに一日の日程がございまして、大体午前中に研究授業と授業研究会。この授業研究会も学校ごとにやり方はあるんですけども、大体みんなで一つのこと、あるいはいくつかのテーマで考えていくという形になると思いますので、その場でそういうことを皆さん研究して、次の授業に生かそうとしているんだなっていう、そんなところを見ていただければありがたく思います。

◇教育委員（林 綾子） 分かりました。ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） ほかにご質問等ございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑がなければ、この議題協議につきましては以上といたします。

次の議題に移ります。

（３）第２次教育振興基本計画中期の取組[令和３年度～令和５年度]の振り返りと後期計画の策定スケジュールについて

○教育長（熊谷邦千加） 第２次教育振興基本計画中期の取組 令和３年度～令和５年度の振り返りと後期計画の策定スケジュールについてを議題といたします。

説明を求めます。

秦野教育次長。

◎教育次長（秦野高彦） よろしくお願ひします。

スケジュールは生涯学習・スポーツ課長の後藤課長から説明させていただきますが、そ

の前に、中期の振り返りのことについて、説明をさせていただきたいと思います。

資料No.3 をご覧いただければと思います。ページが振られてないので誠に申し訳ありませんけれども、資料No.3 を4枚めくっていただきまして、基本的な構成の仕方をまずはご説明をさせていただきたいと思います。

ここに教育振興基本計画の中期3年間の振り返りということで、表になっているものがございまして。実は現在の教育振興基本計画の中期は、今、飯田市としていいだ未来デザインというのを2028年まで推進してい中期計画と全く同じ形のものになっていますので、教育振興基本計画の振り返りと同時に、議会や未来デザインの市民会議の皆様をお願いしている振り返りは、教育振興基本計画をそのまま振り返っていただいているという状態になっています。

それでこの構成ですが、重点目標1が、いいだ未来デザインの基本目標3というものになっておりまして、それ以下の黒のダイヤが教育振興基本計画の重点目標1の8つになります。この8つに対応するのが小戦略という形で具体的な取組を、何をしていくかということで、教育振興基本計画に位置づけられていますが、4年間の取組ということで、一番上のダイヤ、「お互いを認め合い」が小戦略①「学力の保障・学力の向上」が対になっています。

2番目の黒ダイヤがその②という形で、以下1～8ということで、具体的にその考え方をどういう取組で実現していくのかというようなところが、この小戦略の1～8ということになります。

実際にこの取組によってどのような形で進捗確認をするかということで、重要業績評価指標KPIと言われるものですが、これをこの5つで表させていただいております。令和2年が基準年になっておりまして、令和6年に目標を定めていまして、この目標に向かってその上の小戦略と言われる取組を行っていくという形になっています。

では、申し訳ありません。1枚目にお戻りいただきたいと思います。

今回、事務局でまとめさせていただいております。議会へも月曜日に説明をさせていただいた資料をご用意させていただいております。本日初めてお配りをさせていただいておりますので、またご一読いただきまして、次の教育委員会のときにご意見等をまた賜ればなというふうに考えております。

後で日程のお話をさせていただきますけれども、3月の議会で最終的に教育振興基本計画の後期の取組を完成していきたいという形で進めさせていただきますので、その間、また教育委員の皆さんの方々のご意見を賜っていきたいというふうに考えております。

これは資料のつくりですが、まず重点目標の「ねらい」ということで、一番上に1という形で組んでおります。

重点目標1は、「小中連携・一貫教育、飯田コミュニティスクール等の取組を進め、お互いを認め合える人間関係づくりを行うとともに、個に寄り添った誰一人取り残さない教育や支援を行い、児童生徒の『ムトスの学び』へつなげることを目指します」という形になっております。

3年間の総括は、令和3年から5年までという形になっておりますので、ちょっとまだ「ムトスの学び」自体が令和5年からお話をさせていただいていたこともありまして、ちょっと勇み足をしてしまいましたが、ここのところに3年間の総括の中に「ムトスの学び」という形で入れてしまいましたけれども、最終的に4年目のときに関わってくるお話でございますので、そのところを少し修正させていただきたいとは思っております。

3年間の主な取組成果というのは、先ほどご説明を差し上げた黒ダイヤで、さらにこの場合ですと一番上でございますので、「学力の保障・学力の向上」という部分で、どういう到達点に行ったか。そのためにはどういう主な取組を行ったか。すみません一枚めくっていただきまして、それで行われた主な成果という形で、以下、8つのダイヤに向けて、取りまとめをさせていただいております。

すみません、一番前から5枚目をめくっていただき、先ほどの振り返りの表の次が重点目標2ということで、これは未来デザインの基本目標4ですが、こちらは主に社会教育が中心になっております。同じような構成になっておりますので、またご一読をいただきまして、ご意見を賜ればというふうにお願いをしたいと思っております。

さらに、そこから5枚めくっていただきますと、重点目標3という形になっております。

こちらは、未来デザインの基本目標5と対応しておりまして、文化・スポーツ活動、これを社会教育から特出しをしてあるという形で、中期の取組のときには作成をしております。同じような形で構成をされておりますので、またご覧をいただきましてご意見を賜ればというふうに考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

今のそのままご説明を差し上げますが、もう2枚めくっていただきますと、4「環境の変化及び後期4年間の取組策定に向けた課題認識と今後の方向性」ということを記載させていただいてあります。これは重点目標の1、2、3全てにおいて同じ形で構成をされておりますけれども、その前までの黒ダイヤの戦略到達点、主な取組、主な成果を踏まえまして、どのような環境変化が事務局としては捉えているか。それに対して次の4年間、来年度からの4年間でどんな課題意識を持っていっていいのか。さらにその課題認識を踏

まえて、今後の方向性としてはこういうことを考えていて、それが次の後期の取組の要素というふうにしていきたいと。現在その事務局内で考えている部分を記載させていただいております。

次回の今度の後期に関しましては、中期と違いまして教育振興基本計画の中から特にこれを中心に取り組むというようなものが、いいだ未来デザインへは取り上げられていくという形になりましたので、教育振興基本計画については、少し細かいそれ以外のものが策定されるという組み立てになります。またご意見賜りながら進めさせていただきたいというふうに思います。

また、ご一読いただきまして、教育委員会のご意見でも構いませんし、事務局へ直接メール等でも電話等でもいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

ひとつ、市長との総合教育会議に当たって整理をしていかなければいけないかなというふうに、先ほど説明を聞きながら思ったところがあるんですけども、教育振興基本計画自体は12年間で、本体自体は12年間で設定をされています。それを4年間ごとに分けて、前期の取組、中期の取組、後期の取組という形になっていますので、教育振興基本計画全体を今組み直すということではなくて、全体の計画の中の後期にどういう取組をするかということ話を合っていくという形に現在のところなっています。それは未来デザインも同じで、未来デザイン自体は12年間。全く教育振興基本計画と同じ期間になっていまして2028年まで。本体は2028年まであって、その中で目指すまちの姿に対して、後期の4年間で何をするかというのを今ご意見を賜りながら策定をしているという状態になっておりますので、またちょっとその辺りは総合教育会議を臨むに当たって、もう少しきちんと資料を整えて説明を差し上げる必要があるかなというふうには思っております。

元に戻りますが、教育振興基本計画も12年間の最後の4年間の取組という形になってまいります。次回、またご意見を賜れる時間をとらせていただきまして進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

日程等につきましては、生涯学習・スポーツ課長の後藤から説明をさせていただきます。

○教育長（熊谷邦千加） 後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それではお手元にありますA3番の大きなカラー刷りの飯田市教育振興基本計画策定スケジュール案というものをご覧いただきたいと思います。

飯田市の教育振興基本計画でございますけれども、先ほど次長からご説明を申し上げたとおり、12年間の計画のうちの今回策定するのは、後期4年間、最後の4年間の計画を策

定するということになります。

これに向けてですが、本日、中期の計画の振り返りと後期の計画のスケジュールをご提案させていただいているところでございます、この後、事務局で素案の作成に入らせていただきます。この後8月・9月とそれぞれ定例の教育委員会ございますけれども、協議会等でご意見をいただく時間を頂戴できればというふうに予定をしております。

こちらの事務局でいわゆる原案、皆様方からご意見頂戴できるような形での原案をご提示できるのが10月16日の定例教育委員会のときまでには、今回の後期の計画の原案をご提示するように進めてまいりたいと予定をしております。その後、ご意見いただいた上で修正等をさせていただくわけですが、それぞれの各部課並びに関係機関からの意見聴取を進めさせていただきながら、11月の中旬には社会教育委員会議を予定しておりますので、そういったところでのご意見をお聞きする中で、ある程度固まった案というものを、庁内的には12月10日の日に部長会がございますので、そこに諮ってまいりたいと。同じく12月13日の教育委員会、12月16日の市議会社会文教委員会の協議会がありますので、ここに向けてまとめていくという形になります。

それからその後ですが、翌日になりますが、パブリックコメントを市民の皆様から求めて1カ月間を予定しておりますが、その後そのパブリックコメントで出た意見に対しての回答というかコメントをこちらでまとめさせていただきまして、教育委員会で、そちらについてのご協議をいただく予定としております。そこでのパブリックコメントの意見を反映させたものを2月の教育委員会にかけさせていただきまして、そこで事実上の案を確定させていただくという形になります。その後3月の教育委員会等でご審議をさせていただきます、最終的には3月13日の教育委員会の決定を受けまして、成案という形で進めてまいりたいというふうに考えております。

あわせて、今回スポーツ推進計画、図書館のサービス計画、美博の基本プラン、歴研の第4期中期計画、こちらについても今回策定をするということになってまいりますので、おおむね今のスケジュールにそれぞれの計画も載せる形で皆様方にお諮らいをしてまいりたいと考えておりますので、またご協力のほどをよろしくお願いしたいと思います。

私からの説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありましたことにつきまして、何かご発言はございませんか。

これから先の4年間に向けて今までの4年間を振り返る時期であり、また計画を立て直さなきゃいけない時期ということでもあります。

未来デザインというのは市の全体の計画であって、教育振興基本計画は教育委員会の個別計画ということでありますが、その立て直し、計画を直す、策定するに当たっては、それぞれスポーツ、図書館、それから美博、歴史研究所、それぞれが計画を今までの成果を明確にして新しい計画を立てると。それが 12 月までに案をつくってパブコメをいただいて決定していくという、そういうスケジュールだということです。

確認ですが、今このことについて詳しくご発言いただいたほうがいいってことですかね。

◎教育次長（秦野高彦） いえ、今日お配りしたばかりなので、またお読みをいただいて、次のときにこういう視点が足りないよとか、こういうことをやっていたのになぜ記載がないのかっていうような、そういうのも含めてご意見をいただければと思います。

私の思いとしましては、先ほど「ムトスの学び」の意見交換がありましたが、よく教育長の説明をお聞きしておると、社会教育が今までやってきたものが「ムトスの学び」と非常に親和性が高い。自分たちの課題を見つけてとか、自分たちの課題を自ら考えてどう解決していくのかっていうようなことはずっと言われてきていることで、まさに教育全体の「ムトスの学び」の考え方を導入していくと、うすうす思っておりまして、そんな方向性で後期の取組が組み立てられるといいかなと。地域においてもそういう考え方で取組が行われて、学校において取り組みが行われる、そのような思いを持っているところであります。

どちらにしても、今日初めて初見ということもありますので、熟読をしていただきまして、次の機会またご意見を賜れればと思います。

日程としてはこういう動き方をしていくという形になっておりますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 改めて質疑がございましたら。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 宿題ということで、申し訳なかったけど、プラスアルファのお仕事になりましたね。

遠慮なく分からないところは「分からない」と言っていただくこともとても大事な貴重な意見になるかと思っておりますので、お願いしたいと思います。

では、質疑がなければこの議題についての協議はよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 以上といたします。

以上で協議事項は終了いたします。

次の日程に進みます。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 本日、日程第8、「陳情審議」。本日は、陳情審議はございません。

議事の途中ですけれども、大分時間がたって休憩をとってございませんで、これから5分くらい休憩をとりたいと思いますがよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） では、暫時休憩といたします。

休 憩 午後4時15分

再 開 午後4時20分

○教育長（熊谷邦千加） それでは休憩を閉じ、会議を再開いたします。

次の日程に移ります。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第9、「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」。

初めに、教育長職務代理、教育委員の皆さんからご報告がございましたらお願いをいたします。

野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 7月19日の日に主幹帯同ということで浜井場小学校にまいりましたので、その報告をさせていただきます。

全体的には大きな問題はないというふうに認識しましたが、すごいなあとと思ったのが、研究主任の壬生先生がこういう資料をわざわざおつくりいただいて、今こんな形でやっていますということで報告いただいて、非常に熱心に取り組まれていらっしゃる、すごいなというふうに思いました。

あと、ちょっと課題かなと思ったのは、我々のような会社もそうなんですけども、何人かの先生方が将来どうなっていくのかなという部分を心配なさっているようなそういうところがありまして、自分のライフデザインというか、「この先どういうふうになっていくかっていうところが不透明な部分があるので、そこは非常に不安だ」という方が2名ほどいらっしゃるんです。

それは非常に難しいと思うんですね。先生方ってどうしても転勤が多かったりするので、そういう家庭のデザインや、いろいろこうやっていこうという計画に対して、例えばどこに転勤しちゃったとかいうので、どういうふうになっていくんだろうっていうのを心配されている方がいたんですけども、私たちの会社でもそうなんですけど、若い人はやっぱり自分の5年先、10年先をある程度見せてあげないと心配になるっていうのが今よくある話なので、この辺は教師の方の課題なのかなってちょっと考えました。

具体的にどの先生の話っていうことまでいいですかね。

○教育長（熊谷邦千加） はい、また後で教えていただければ。

◇教育委員（野澤稔弘） はい、分かりました。

全体的には新しく来られた教頭先生の水野先生ですか、初めて小学校に来られたということで、ずっと中学校だったらしいんですけども、最初はちょっとどうしていいかなっていう感覚でいたらしいんですが、今はほかの先生方にとってみると非常に明るく頼もしい存在になっているので、その水野先生を中心にいろいろと改善ができてきているということでお話を伺ってきたところであります。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

今の報告につきまして、何かご発言ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ほかの委員さんで何かございますか。

三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 7月12日に三遠南信教育サミットに出席させていただきました。教育長先生からもご発表がありまして、改めて勉強になりました。ありがとうございました。

竹島水族館の小林館長の講演をお聞きして、心に残ったといいますか、勉強になったなと思う点は、とても小さな水族館ということで、来場者が12万3千人くらい。収益を上げるには24万人いなきゃいけないよというところを47万人までにしたよっていうそんな業績をお持ちで、お話をお聞きして、お客さんが少ないときになぜ少ないのかっていうお話の

中で考えたときに、古くて、小さくて、お金がなくて、貧乏で、人気の生き物がいなくて、近くに大きな水族館があって、スタッフのやる気が総体的に見られないと、そんなところがあったときに、じゃあそれをどうしていくのかと考えて、小さいんだったらアットホームな小回りで動きやすい、そんな水族館。お金がないなら手作りで。人気の動物がいないなら飼育員自体が名物の飼育員になる。自分たちも生き物じゃないか。ということで、あと古い・小さい・貧乏、そういったものは全部売りにしていけばいいということで、全ての展示パネルが手作りであったりとか、ほかの水族館にはない「このお魚美味しいです、食べ方が。」なんて書いてあるパネルがあったりとかというところでの47万人、4月にはリニューアルオープンするほどの今はとても大盛況な水族館というお話を聞きました。

トータル的なお話としたら、弱点っていうものを強みに、駄目なことは実は駄目じゃないんだと。そんなお話であったかなというふうに思います。

私の勤めている先、短大の建学の精神は「うつくしく生きる」という建学の精神ですけども、前学長のその理念の中には、『駄目な人は一人もいない』とそういった理念で教育するように」というふうに我々は言われて短大の運営をやってきておりましたけれども、そんなところにも通じるなと思いました。

今日冒頭に、次の総合教育会議のテーマについてということでお話がありましたけれども、「ムトスの学びが目指す学びの姿」というのをテーマということでしたが、飯田市を知って飯田市にあるものっていうものを考えたときに、その一つ一つが強みになっていくというように、この教育自体も考えていければ、このちっちゃな南信州のこういった教育を考える上で、ほかの大きなところにはない、ほかの地域にはない、そういったものに変えていかれる、見方を変えて何かやっていけるのかな。そんなちょっと知恵を授かったような講演会でした。

報告は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。

林委員さん。

◇教育委員（林 綾子） 同じく7月12日の三遠南信教育サミットで、今、三浦委員から内容の説明ありました。

その中で熊谷教育長をはじめ3人の方の事例発表がありました。それぞれにとっても参考になる内容だったんですが、私の特に心に残ったというか、袋井市の「日本一みらいにつながる袋井市の給食」ということで、給食をテーマにご発表をいただきまして、給食への

大変熱い思いが伝わる内容で、とても興味が持てました。

特に最後のほうに、給食の最終的な目的っていうか目標というかが、将来的に自分で食を管理する自己管理能力を育む。あるいは望ましい食習慣を形成するっていう、そういう子どもたちが将来どうなっていくかっていうところまで考えて給食っていうのが提供されているんだなということで、飯田市でもそのようにされているかとは思いますが、改めて給食っていうものの重要さっていうことを共感しながら聞かせていただきました。

また、その後に行われた交流会でも短時間ではありましたが、かなり活発に意見交換をさせていただきまして、とても勉強になった会でありました。ありがとうございます。

それと教育長からも少しお話がありましたが、個人的に7月21日に美博のプラネタリウムを拝見させていただきました。実は2週連続行きまして、子どもが「行きたい」というので、午前中の回をその前の週に、午後の回を21日という形で連続で見させていただきまして、ちょうどその日は満月でして、星空の解説っていうのを必ずプラネタリウムでしてください。私は「ふーん」と思って聞くだけなんですけど、とても心に残ったようで、子どもが「昨日が月面着陸の日で、今日は満月だよ」というようなのをしっかりと年長の子どもですけど、2週連続で星空のことを聞けたからだと思いますが、とても心に残る星空解説をしていただいたなと感じました。

保護者という立場からすると暑い夏に、とても涼しくて心地の良い空間にいらしていただきましたので、これからも今よく言われるクールシェアというスポットとしても、図書館とか美博とかそういった屋内の施設を活用させていただきたいなと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 7月10日に市町村教委連絡協議会の県の代議員会というのがあって長野市まで行ってきました。今回は市町村教委連絡協議会と、県教育委員会との懇談会も設定されていて、県教委の武田教育長もお見えになって、お話を聞いたという流れです。武田教育長の話の中に、「探究県長野の教育を具体的に進めていくために特に次の4点をこれから検討していく」というそんな話がありました。「その際、行政が中心になって検討していくのではなくて、学校現場の先生方が意見交換をする機会を大事にしたい。要は行政側からの提案、県教委からの提案で変革するのではなくて、現場サイドの主体的な意識で変革をしていくというところを目指している」というそんな話でした。

その4点という中の1点目が、先ほどの専門幹から話がありました教育課程研究協議会

のあり方です。研究協議会自体をなくすというのではないけれども、現在行われている一日日程とか、研究授業をやって授業研究会をやるという、その内容。指導主事がそれを見てご指導の時間とかがあるのですけれど、「指導主事が今、指導しているようなあり方で本当に学校現場に生きるのかという、その根本的なところも見直ししながら、実効性のあるものになるように、今年・来年をかけて検討し、少なくとも8年度からは何らかの変えたものにしていきたい」という、そんなことをお聞きしました。

2点目は、教員加配のあり方。今、私の記憶だと県全体で30億円分ぐらい加配されていると思います。平成の半ば頃だと長野県では52億円ぐらいの加配をしていた頃もあるのですが、今は大分減って、それでも30億円近い教員の加配ということになっている。武田教育長からは「今の加配は条件さえ整っていればその学校に先生が加配されるというそんな流れだけでも、それで本当に教育効果を生むことができるんだろうか、その根本のところに戻りたい」と。「そういうわけで、本当の意味の教育課題の改善に生きるようなそういう加配をこれからは考えていきたい」というそんな話がありました。学校現場からすると、今年ももらえたから来年も加配の先生がいただけるのではないかなというように、かなり安易なところがあるのではないかなという課題認識だと思います。

それから3点目は、特別支援のあり方ということです。子どもの人数が減っているのに特別支援学級は増えている。飯田市も同じ状況があるのですけれども、「その状況を見ながらインクルーシブな教育のあり方も含めて見直しをしていきたい」と。県の状況でいくと現在97%の学校に少なくとも校内のサポート教室があるという状況なのだけでも、加えて今、県内全体に通級指導教室を123教室設置しているのだそうです。ただ、この通級指導教室は、全国と比べると利用率が低いという状況だそうです。そこで通級指導教室をさらに活用してもらうためには教員の指導力向上ということもあるけれども、「地域バランスにさらに配慮して通級指導教室が使えるようにしていきたい」という、そんな話がありました。

最後は、この総合教育会議の話のところ、「ムトスの学び」のこととも絡んでいく話になるのかなと思いながらお聞きしていたのですけれども、総合的な学習の時間やそれから高校で始まった探究の時間が、主体性や課題解決力を磨くのに非常にいいという。飯田市でもそれを有効活用していこうという流れにある。私たちが子どもに求めている学力が単なる知識中心というところから、「もっと生きた力を」というところへ変わっている。大学などもそれを受け止めて、国公立大学でも3割ぐらいをAO入試で、そういう学びの成果で合格者を決めるというふうに動いている中、高校入試だけが相変わらず旧来のまま。した

がって、学校現場は探究や総合学習はすごく意味があるというふうに受け止めて、そっちにシフトしかけているのに、高校入試は依然としてあまり変わっていない出題になっているので、結局保護者の思いも、それから子どもたちの思いも、総合学習や探究学習、いいにはいいけれど、でも、最後はこのままやっても入試のところで生かせるかという話になってしまう。そこのところを県教委も「学びの多様性、それから子どもの多様性が生きるとような入試に見直しをかけていきたい」ということを強い思いで言われていた。ここのところをなんとか変えていきたいと同じ思いでお聞きしました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、何かご発言があれば出していただければと思いますがいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございました。

では、次へ進みたいと思います。

（２）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （２）「教育次長報告事項」。教育次長から報告がありましたら、お願いします。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

（３）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（３）「学校教育課関係報告事項」。

倉田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） 学校教育課教育企画係の倉田と申します。

それでは私から学校のあり方審議会の状況についてご報告をいたします。

本日資料として３つお配りさせていただいております。この資料ですが、７月 18 日に今年度第３回目となります飯田市これからの学校のあり方審議会を開催しておりまして、今回の審議会では「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ～第１次～（案）」について実施をしました、パブリックコメント及び地域協議会への意見聴取の結果をご報告しますとともに、出されました意見を踏まえて第１次方針案にどのような修正や追記を行ったか、ということをご説明し、ご審議をいただいております。その審議会でお出しをした

ものと同じ資料ということで3つの資料をご用意させていただいております。

資料No.2-1になりますが、まずパブリックコメントの状況についてご報告をいたします。

パブリックコメントについては、6月3日から7月2日までの期間実施をいたしまして、15名の方から、項目でいきますと71項目の意見をいただいております。いただいたご意見につきましては、様々な視点から貴重なご意見やご質問をいただいたと捉えておりまして、それぞれ個別のご意見・ご質問に対する教育委員会としての考え方は改めてお示ししたいと考えておりますが、全体的には今後の教育委員会の施策や活動への参考とさせていただきたいと考えております。

続いて、資料No.2-2になります。地域協議会への意見聴取についてですが、今回飯田市内20地区の全ての地域協議会に意見聴取を行っており、全体的には第1次方針案の方向性は認めていただいた上で、今後の進め方として保護者や地域に十分な説明・意見交換を行うことというご意見を特に多くいただいております。それとともに、学園構想を進める上での組織体制や特色ある教育、特設教科の組み立て方等についてのご意見もいただいております。

また、千代地区や上村地区、南信濃地区では、児童生徒数の減少の状況を捉えて、千代地区では第2次方針等を早く示していく必要性について、上村地区・南信濃地区では「第1次方針に基づく学園構想を令和7年4月から開始をしてほしい」ということをご意見としていただいております。地域協議会での個々のご意見に対する教育委員会としての考え方もパブリックコメントと同様に、あらためてお示しをしたいと考えております。

これらのご意見を踏まえまして、第1次方針案の修正を行っておりまして、修正を行った内容が資料No.3ということになります。

修正箇所をご説明いたします。まず表紙、それから2ページの部分になりますが、年月が入っておりますが、これを令和6年7月に修正しております。

それから続いて4ページをご覧ください。4ページ、小中連携・一貫教育の部分になります。このアンダーラインを引いてあるところと見え消しになっているところもありますが、ここの「2）小中連携・一貫教育」の項目、この中で「中1ギャップ」という表現がありました。パブリックコメントの中で「この『中1ギャップ』という表現は、正確な表現であるか」というそういった趣旨からご意見をいただいておりますので、ここでは「中1ギャップ」という表現を改めまして記載内容を修正しております。

次に、6ページをご覧くださいと思います。

6 ページで「2) 形態」の一覧表の部分になります。小学部の中に学校名が入っておりますが、このうち飯田東学園の丸山小学校、それから竜東学園の中の龍江小学校、ちょっと見づらいですが、ここのところにそれぞれ括弧が入っていましたが、「この括弧書きは不要ではないか」というご意見をいただいております、括弧の部分削除しております。

続いて7 ページをご覧くださいと思います。7 ページ一番上、「3) の特色ある教育活動」の部分になります。

今回いただいたご意見の中で、不登校の児童生徒への対応についてですとか、特別な支援を要する児童生徒への対応についての記載がない、というご意見をいただいております、この部分を修正しております。

特色ある教育活動を進んでいくための前提としまして、これまで取り組んできた不登校傾向のある児童生徒等への個に応じた支援などの教育活動の充実を基本におくということ、を、ここで明示させていただいております。

続いて9 ページをご覧ください。「4) の先行自治体における評価」の部分になります。この部分については、文科省が平成 29 年3月に実施をした調査から結果を抜粋した内容となっておりますが、この部分について取組の成果、いい部分だけの記載になっている、というご意見をパブリックコメントでいただいております。

また、5月の審議会の中でもこの記載内容についてご意見をいただいておりますので、ここに学習指導・生徒指導の部分の面での課題に関する結果についての記載を追記させていただきます。

こういった修正箇所をご説明いたしまして、審議会の委員の皆様からはより分かりやすく、また誤解を招かない表現・内容としていくという観点から、修正を行った箇所の表現について、あるいは全体的な文章の構成、順番等についてご意見をいただいたという状況でございます。

今回の審議会は9月19日を予定しております、改めて第1次方針案について審議をいただくことを考えておりますが、それとともに、児童生徒数が減少する中での教育環境の充実といった点につきましても意見交換できればと考えております。

また、保護者への周知という部分で申し上げたいと思いますが、いくつかのPTA等から学園構想についての学習会をお願いしたいという内容をいただいております、PTAや保育園の保護者会を対象とした学習会での説明等を随時行ってまいります。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきまして、ご質問ご発言等ございましたらお願い

いたします。

林委員さん。

◇教育委員（林 綾子） 今このパブリックコメントに対して私が聞き漏らしていたら申し訳ないんですが、「教育委員会としてもお答えをする」というふうに確かおっしゃっていたと思いますが、それはどういったタイミングとか手段でされる予定でしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 倉田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） ご質問いただきましてありがとうございます。

時期についてはまだ未定ですが、それぞれの考え方について、例えば方針案の修正に反映させたってということですか、あるいは参考とさせていただいたというようなことを記載しまして、飯田市の公式ウェブサイト上に回答の一覧表を掲載する、また、パブリックコメントを実施するに当たって、各自治振興センターの窓口ですとかそういったところに資料の設置をいたしましたので、そういったところにも回答を新たに設置するという形で市民の皆さんにお知らせするという形でございます。

時期については、まだ未定でございます。

◇教育委員（林 綾子） 分かりました。ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですかね。

◇教育委員（林 綾子） はい。

○教育長（熊谷邦千加） ほかいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では、ご発言がないようでしたら次へ進めてまいります。

令和6年度三遠南信中学生交流会についての報告を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは時間の関係もございますので、かいつまんでご説明を申し上げます。

事前にお配りをしております1枚の用紙、「令和6年度三遠南信中学生交流会 概要」とある用紙でございます。

内容は記載してあるとおりです。先ほど教育長からの報告事項でもございましたが、7月21日の日曜日に結団式を行った関係でございます。開催日は8月6日から7日にかけて一泊二日ということで泊を伴う開催は5年ぶりでございます。今回は、飯田市がホスト市としてお迎えをします。宿泊場所は阿南少年自然の家。

参加者でございますが、各中学校8校から4名、遠山中からは2名の参加ということで、

飯田市の生徒は 34 名です。それぞれ豊橋・浜松から以下の人数が来られまして、生徒の合計は 137 人の予定です。

それから日程でございますが、11 時前から対面式を始め、午前中は人形劇を鑑賞。昼食後は 2 班に分かれてそれぞれりんご並木と水引づくりの体験をそれぞれ行います。その後に美術博物館を見学し、おおむね 5 時までには阿南少年自然の家に着く予定でございます。若干時間に変更はありますが、ご確認をお願いします。それから夜に意見交換、それから翌日は午前中竜峡中学校へ移動し、意見交換を行います。

意見交換の内容といたしましては、その上 7 にありますが「私の学校 私の街 〜みんなの笑顔や幸せを目指して〜」ということで意見交換を予定しております。昼食後午後、お別れの会を行い、解散をするという内容で進めてまいりたいと思いますので、ご承知おきください。

報告は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきましてご発言がありましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では次に進みます。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （４）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊勢市との小学生交流会、それから飯田市平和記念館夏休み特別展「銃後の女性と子どもの暮らし」の開催について、そして第 70 回風越山トレイルマラソン大会の開催についての 3 件について、一括でお願いします。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それではお手元の資料 No. 4 をご覧ください。第 46 回になります令和 6 年度の伊勢市との小学生交流会の開催概要でございます。

これまで伊勢市の小学生との交流を行ってまいりましたが、今年度につきましては伊勢市からの子どもさんを受け入れるそういう年になります。8 月 8 日から 9 日まで市内の 7 校の小学校の皆さんにご参加をいただいて交流を行います。

今回は新たに焼肉をぜひ楽しんでいただくということで、天竜川のすぐそばにあります天龍グラウンドで焼肉を体験していただくというのを新たに企画して加えさせていただきます。また、天竜峡のそらさんぽの散策も予定しているところでござ

います。

参加人数等については、資料にご覧のとおりであります。

続きまして、資料No.5、飯田市平和記念館の夏休み特別展ということで「銃後の女性と子どもの暮らし」という特別展を予定しているところでございます。この催しにつきましては、平和記念館自体が市民の皆様から寄せられました戦争に関する様々な遺品や物、そういったものをお預かりしているわけですが、そういった展示がなかなかできていないわけではないんですけれども、お預かりした状態になっていてなかなか見ていただく機会がないということで、今回、同じ会場で「信州戦争展」が行われるということもございまして、同じフロアの一角に平和記念館として展示ブースを設けまして「愛国イロハカルタ」や戦時中の「生活目標」といったそういった当時の生活ぶりが分かるようなものを展示させていただきたいということを予定しております。

また、今回ですけれども、飯田短期大学にご協力をいただきまして、戦時中のすいとんと現代のすいとんを食べ比べていただける、そういう試食の場も設けさせていただいて、少し防災学習の要素も入れさせていただきまして、柔らかにこの平和について考えていただくそういう機会にしようということで予定しております。

日時は8月10日から12日までの3日間、ムトスぷらざの3階の大会議室のDという場所で予定をしております。先ほどのすいとんの試食は、11日の日曜日のお昼頃を予定しておりますので、もしよろしければご参加いただければ幸いです。

それから続きまして、ちょっと先ほど休憩時間の間に配らせていただきましたけれども、第70回、風越山トレイルマラソン大会のご案内となります。

今回70回を節目といたしまして、名前をリニューアルさせていただきまして、風越登山マラソン大会の名前を風越山トレイルマラソン大会とさせていただきました。

特に近年はトレイルマラソン、トレイルランが非常に言葉としてメジャーになってまいりまして、そのトレイルランに取り組む方がだんだん増えてきているということで、名前をこのように変えさせていただいております。

大会の運営自体、コース等は今までとは変わりませんが、今回70回を記念いたしまして、秋山穂乃果さんというトレイルランのプロの方にご参加をいただいて、実際に白山社まで登っていただくとか参加していただくということで、一緒に走っていただくということを予定しております。

また、ほかにここには書いてございませんけれども、また改めて発表させていただきますが、有名人の方をお招きいたしまして、大会に花を添えていただくように今予定をしてい

るところでございます。

また、風越山を知る機会ということで、風越山を愛する会の皆様によるパネル展示を行っていただいたり、当日は高校生の皆様にもいろいろご協力をしていただけるように、今お声掛けをさせていただいているところでございます。

また、地元出身のチョークアートの作家さんによります写真を撮るためのバックボード、こちら当日会場内に設置をさせていただいて、その前で参加していただいた選手の皆様が写真撮影をして、SNS等で発信をしていただけることを期待して、そんな取組も予定しております。

こんな形で現在参加者を募集しているところでございますので、昨年以上に参加者の方が集まるよう努力してまいりたいと思っております。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今の報告につきまして、何かご質問ご発言等ありましたらお願いいたします。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 焼肉をやるのであれば、ぜひ日本に焼肉を持ち込んだのはやっぱり朝鮮の人たちだということと、それから逆に朝鮮のキムチっていうものの文化があると思うんですけども、唐辛子を伝来させたのは日本からですので、そういう隣国のそういう交友もあって初めて今こういうものがあるんだ、みたいなところをちょっと伝えていただけたらうれしいかなっていうふうに思います。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） 承知しました。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

よろしいですか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

では次に進みたいと思います。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （５）「文化財保護活用課関係報告事項」。

下平課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 先ほどお配りしました赤いチラシをご覧ください。

飯田市の考古博物館では現在「秘められた縄文時代のつながり」と題したロビー展を行っています。今回は県埋蔵文化財センターが昨年度調査しました下久堅の川原遺跡から出土した 4,000 年前の縄文時代後期の土器にスポットを当てています。

このチラシの土器を展示のメインとしていますが、縄文土器は時期ごと地域ごとに同じ文様であったり、土器の形を共有するグループがあります。当地域は縄文時代全般を通じて東海地方のグループに属します。加えて関西と北陸と関東の土器が少し見られます。ところがこの土器はそのグループのどこにも属さない土器で、調べたところ、なんと青森県の土器だったということが判明しました。青森からダイレクトに来たわけではなくて、長い時間をかけて土器のイメージや使用法が伝わってきたと考えられます。

あらためて市内のほかの遺物を調べてみますと、遮光器土偶の腕の部分が出土していたり、他にも東北地方の土器がいくつか出土していることが判明しています。こうしたことから、大体 3,000 年ぐらい前から、当地域は東北地方と関係を持つようになったということが分かってきました。

今回はそういう遺物を中心に、縄文時代の地域間交流や、当地域の縄文文化の面白さを伝える展示となっていますので、機会がありましたらぜひご覧になっていただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 大分時間がかかってきておりますので、後でまとめてご質問等あったらと思いますので、恐れ入りますがご協力いただきたいと思います。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（６）「公民館関係報告事項」。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 本日はございません。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（７）「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

◎文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは文化会館から 2 件、チラシとガイドブックを配布させていただいておりますので、簡単にご案内申し上げます。

まず、カラーのチラシで第 21 回萩元晴彦ホームタウンコンサートです。これは 9 月 1 日、防災訓練がある午後になりますけれども、こういったホームタウンコンサートがあるとい

うものであります。

時間がないので簡単にしかお話できませんけれども、「スペシャル・トリオ」と銘打っておりますけれども、本当に今回スペシャルな3人の方です。日本の中ではNHK交響楽団っていうのは最高峰の交響楽団ですけれども、そこに今30歳という若さで第一コンサートマスターをされておる郷古 廉さん、ちょっと読み方が難しいですけれども、ヴァイオリンの郷古 廉（ごうこ すなお）さんが来てくれるということ。メインはホルンの福川伸陽（のぶあき）さん。日本中のホルン奏者が憧れるスーパーホルニストということでもあります。さらにピアノは津田裕也さんっていうことで、この方もかつて飯田で演奏をいただいているということで、とにかくお一人ずつがすごいんですけれども、この3人が飯田で集まっていただけるということがすごい企画ということです。企画自体はテレビマンユニオンということで、テレビマンユニオンは萩元晴彦さんが初代社長を務めた会社でありまして、かつては「遠くへ行きたい」というテレビ番組ですとか、「世界・ふしぎ発見」という番組をつくっている会社です。現在も「サラメシ」とか局を越えて幅広く番組をつくっている制作会社に音楽部門があって、飯田市馬場町出身の萩元晴彦さんの思いをこの飯田で実現するために、第21回のホームタウンコンサートを行うということでありますので、ぜひお越しいただきたいということです。

2点目、いよいよ来週となりました「いいだ人形劇フェスタ 2024」のガイドブック、かなり厚いもので、これまで有料パンフレットですとか、ほかにもチラシがありましたけれども、本年度から一冊にまとめたガイドブックということでできましたのでお配りしております。

今回、オープニングセレモニーが人形劇場ということで、これまでより小さなところでやりますので、教育委員の皆さんにご案内はしておりません。教育長は出張でオープニングセレモニー出席できないので、職務代理にこのセレモニーには参加いただくということであります。

4日のお別れパーティーには、ぜひ皆さんに参加いただきたいということでご案内を差し上げておりますので、お越しいただければと思っております。

細かくはお話できませんので、しっかり見ていただければと思いますけれども、10ページ・11ページに見どころ、例えば海外から来る人形劇団ですとか、伝統人形芝居というような見どころが載っておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（８）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （８）「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

配布させていただいた緑色のチラシをご覧ください。

図書館では、読みたい本を読むという使い方をされている方は多いんですけれども、自分の知りたいことを調べるという使い方をぜひしていただきたいということで、去年のアンケートでも「知らなかった」という方が大勢いらっしゃいましたので、図書館では資料を使ったり、情報を使って知りたいことを探すことができるということを知っていただくための講座、「図書館を使った情報の探し方講座」を開催します。

今年、図書館に新しく「ジャパンナレッジ」というデータベースが入りました。それでの調べ方をお知らせします。

裏面をご覧くださいますと、ちょっと見にくくて申し訳ないんですけれども、この 80 以上の辞典ですとか全集も一括で検索することのできるデータベースが入りました。今、調べる手段としてインターネットを使われる方が多いんですけれども、このデータベースですと短時間で根拠がしっかりとものを調べるということのできるということで、図書館で採用したものです。見出しの検索もできますし、ものによっては内容も検索もできるというもので、シリーズの冊数の多いものなども一括で検索ができるという形で利用者の方にも使っていただけますし、職員の調べ物にも使わせていただいて、利用者の方の調べる時間を短縮する支援をさせていただくというものです。今度の日曜日に調べ方の講座を行います。

それからもう一枚の水色のチラシですけれども、こちらは夏休みにぜひ子どもたちに図書館に来ていただいて、図書館に親しんでいただきたいというものです。

普段ですと昼間に利用していただいていると思うんですけれども、こちら表の紙飛行機を飛ばす「紙飛行機大作戦」は、図書館が閉館してから夜に行うものです。

裏面の「こわーいおはなし会」というのも木曜日の夜に行うもので、ちょっと普段とは違う図書館で楽しんでいただけるかなということで計画しています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございました。

(9) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（9）「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

◎美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館からは、次第のア・イ・ウ・エの4つのチラシと今日1つ追加させていただきました赤いチラシがございます。

ア・イ・ウ・エにつきましては、ア・イ・ウまでは例年行っておりますので、簡単に説明をさせていただきたいと思います。

まず「5館スタンプラリー」ということですが、これは7月20日から8月25日の期間に美術博物館と上村まつり伝承館、考古博物館、秀水美人画美術館、遠山郷土館のうち4館を回っていただくとプレゼントがもらえるという内容の企画でございます。この機会に飯田市にある博物館関連施設を見ていただくということでございます。

続きまして、「ワクワクびはくで夏休み」でございますが、こちら8月11日に開催をいたします。美術博物館でいくつかのワークショップを行うという企画でございます。

裏面にはワークショップの一覧がありまして、1番から7番までそれぞれの分野の7種類のワークショップがございます。7月23日から予約開始ということでございます。

まだ完全に埋まっている状態ではございませんので、予約を今からしていただいても、ご希望のワークショップが楽しめる状況ということにはなっております。

続いて、「藤本四八記念小中高校生写真展」でございます。

こちら例年行っておるものですが、小学生・中学生・高校生の3つの部門に分けて、それぞれの作品を選考するというものでございます。

この募集開始は9月ですが、早めにしていただいて写真を撮っていただくということでチラシを配布でございます。

それから8月の「びはくニュース」でございますけれども、現在表の2番目、美術博物館の展示ですが、特別陳列、飯田市と富岡鉄斎という展覧会を行っております。富岡鉄斎、今年が没後100年、それから飯田に2回来られているんですが、最初に来られたときから150年ということで、美術博物館で所蔵しております、あるいは地元でございます富岡鉄斎の作品を現在展示中でございます。

それから裏面になりますが、プラネタリウム、先ほどからちょっと何回か話題に上がっていますが、8月6日から8月16日までが夏休み投影期間ということになりまして、普段平日は投影が予約投影だけなんですけど、この夏休み期間は土日祝日と同じように4回の投影を行っておりますので、ご利用いただければと思います。

それから最後、今日追加いたしました特別陳列「七科約説を生んだ飯田の医学、本草学」という展覧会を8月24日から開催をいたします。

ここに顔写真で太田用成という方がいらっしゃいますけれども、この方は飯田市出身のお医者さんです。この方が生誕180年という記念の年に当たりますので、この展覧会を企画しております。

裏面に太田用成の経歴がございますが、明治の初め頃に「七科約説」という西洋の医学書を翻訳した本を出版した方です。これは当時の医師になるために必要な科目をまとめたもので、最初の医学書と言われているんですが、これを出版した方が飯田市出身ということで、それを記念して飯田市の医学を江戸時代から近代に向かって見直そうとそのような展覧会になっていますので、またご覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） (10)「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

◎歴史研究所副所長（牧内 功） それではお手元でございます第21回飯田市地域史研究集会のチラシをご覧いただければと思います。

今年度の地域史研究集会ですが、9月7日・8日に座光寺にあります恒川官衙遺跡が平成26年3月に国史跡に指定されて10周年を迎えますので、それを記念しまして「恒川官衙遺跡研究の最前線 浮かびあがる古代伊那郡の役所（伊那郡衙）」をテーマに歴史研究所と文化財保護活用課の共催により行います。

文献史学・建築史学・考古学の視点からこの遺跡を取り上げまして、古代律令時代の伊那郡衙や下伊那の姿を考える機会にしたいと考えています。

1日目でございますが、研究報告としまして歴史研究所の顧問研究員であります東京大学名誉教授の田島 公さんに文献史学の視点から、また東京大学准教授の海野 聡さんに建築史学の視点からご講演をお願いしています。

あわせて、恒川官衙遺跡の発掘を担当してきました文化財保護活用課の羽生俊郎学芸員には、考古学の視点から報告いただいて、また地元座光寺の「歴史に学び地域をたずねる会」の田口博人さんには、恒川官衙遺跡に関する座光寺地区での取組について報告をいただく予定でございます。

2日目につきましては、現地見学会を行いまして、マイクロバス2台に分乗しまして、飯田市考古博物館と恒川官衙遺跡の見学を行う予定でございます。1日目の会場は市役所3階の会議室で、Z o o mによりますオンライン併用の開催となっております。

8月1日から参加申込みが可能となっておりますので、オンラインで聞きたい部分だけでも結構ですので、また参加をご検討いただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。急いで説明をしていただいてご協力ありがとうございます。

それではただいまご報告いただいたそれぞれの件につきまして、どなたでも結構でございますが、ご質問、あるいはご発言がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 全体を通して何か言い忘れた質問などがあれば伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

では、次に進みます。

（11）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） （11）今後の日程について。

今後の日程について事務局の説明を求めます。

松下学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（松下弘毅） レジюме3ページ（11）に今後の日程について記載しております。8月と9月の定例会、また総合教育会議が予定されていますのでご確認ください。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 日程について、何かご発言ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ではないようですので、次へ進みます。

日程第 10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 10、「閉会」。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了といたしました。本日はこれをもちまして閉会といたします。

お疲れ様でした。

閉 会 午後 5 時 10 分